

留学生にとってのアカデミック・ジャパニーズとビジネス日本語教育の課題

キャリア開発のための ビジネス日本語教育と教師の役割



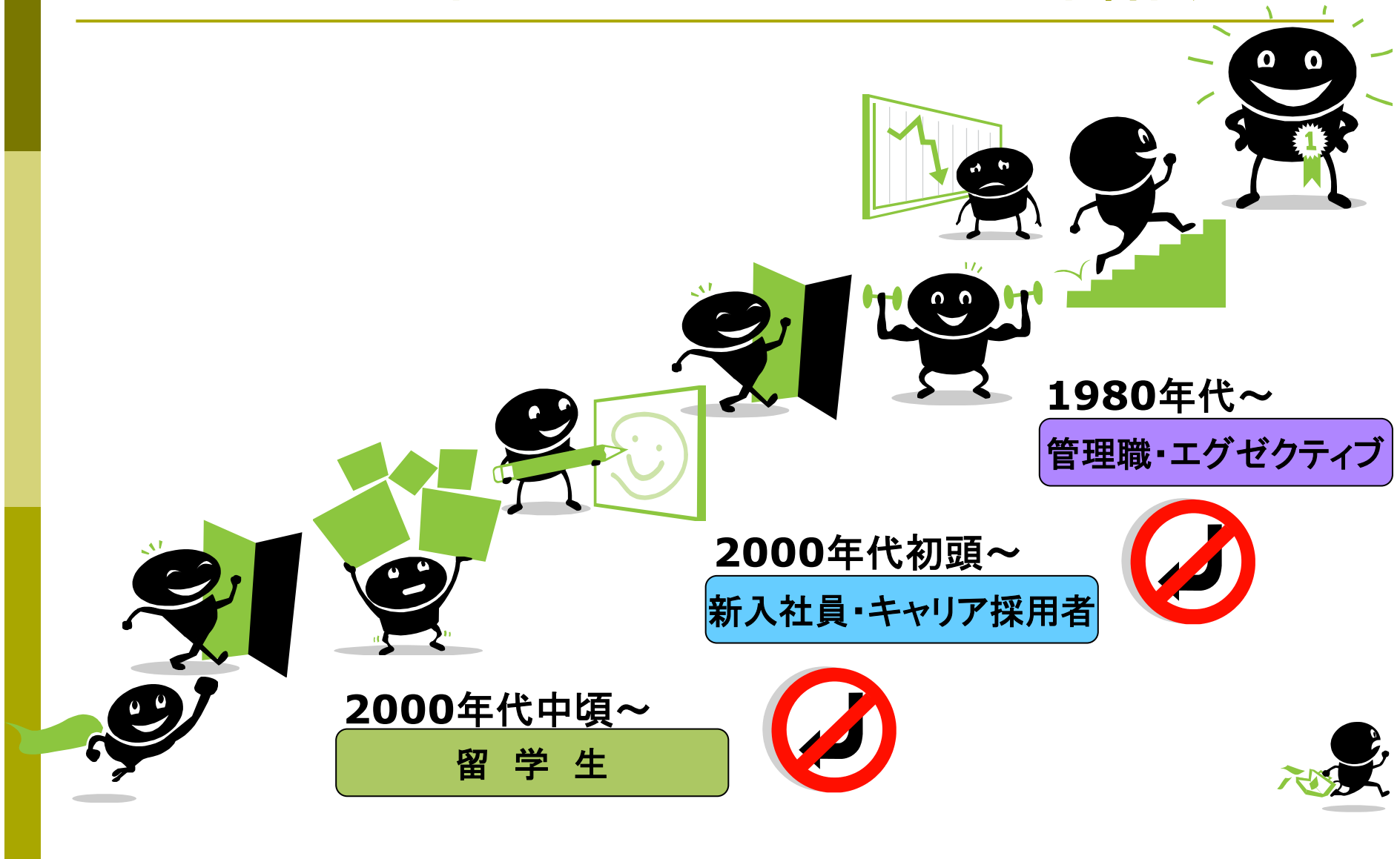
日本語教育学会AJG

(於:米子コンベンションセンター)

2011年10月7日

奥田純子(コミュニケーション学院)

1. コミュニカ学院におけるビジネス日本語教育



1. コミュニカ学院におけるビジネス日本語教育

ビジネス関係者

1980年代～●管理職・エグゼクティブ対象⇒目的・内容が明確

2000年代～●専門職・新入社員・キャリア採用(現地/日本採用)
⇒職掌、職務領域が明確

- 日本人社員(異文化間協働・Comm. WS)

留学生

2000年代～●アジア人財資金構想(大阪大学、近畿:大阪地区)

●大学委託授業(N大学 選択科目:1単位)

●本校設置コース:ビジネス日本語コース(クラス)

⇒就職準備教育

再就職者・キャリア採用・新卒

2. ビジネス日本語教育の実践から

留学生のためのビジネス日本語教育は、
ビジネスパーソン対象の経験が援用できない

就業経験

学習者の比較・対照軸の有無

目的・内容の明確性

学習者の専門分野・希望職種が多様

時代・社会・経済状況による人材像の変化

教育のアウトカム(人材像)の明確化が必要

キャリア開発の教育領域

3. 留学生のためのビジネス日本語教育

1. キャリア開発(支援・形成)として展開する領域

教育のアウトカム:「日本語グローバル人財」(奥田, 2010)

【言語能力・理解・対応】→適応→調整→複数性
ブリッジ人材→イノベーター(変革の新たな次元の主体)
文化間移動者・日本語使用者としての自己概念の変化
内的キャリア(internal career) (Schein, 1978) の発達
文化間協働・文化を超える力(トランス・カルチュラル)
言語教育(狭義)としてのビジネス日本語にとどまらない

教育のアウトカム:「日本語人財」

企業・組織等の職場や職務の遂行場面及びそれらに
付随する場面において、日本語で課題遂行をする能力の育成
+a 一般的能力:企業・ビジネス・文化に関する知識、実践的スキル

4. アカデミック・ジャパニーズとビジネス日本語

ビジネス日本語

一般日本語力

アカデミック・スキルズが基礎

+

物理的・社会文化的・関係的コンテクストの
判断基準・期待値、変革の方向と
言語表現の選択

例:「ほう・れん・そう」は、いつ・だれに、なぜ、どうするのか？
ソリューションをどう主張し、どう実現するのか

5. アカデミック・ジャパニーズ(AJ)と アカデミック・スキルズ(AS)

アカデミック・スキルズ(AS)

知識・思考をあるテーマのもとに表現する過程
職業生活・生涯学習生活の質を豊かにする道具
留学生だけでなく全ての人に開かれたツール

アカデミック・ジャパニーズ(AJ)

大学等で学ぶさいに用いる、
聴く・読む・調べる・まとめる・表現する・伝える・
考えるための日本語
アカデミック・スキルズ(AS)の実現形

6. ビジネス・コミュニケーションと アカデミック・ジャパニーズ

礎

ビジネス・コミュニケーションの基

表現過程 (AS)

- ① テーマの設定
- ② 情報・資料の入手・整理・分析
- ③ 情報・資料利用のルール遵守
- ④ 思考と結論
- ⑤ 文章化・口頭発表

言語 (AJ)

- (1) リーディングスキル (スキヤニング、批判的読み)
- (2) ライティングスキル
- (3) セミナー & プレゼンテーションスキル (論理性)
- (4) 議論・意見交換のスキル

7. 教師の役割

1). キャリア開発としてのビジネス日本語の学習デザイン

(例)シラバス

アカデミック・ジャパニーズの教育:リーディング

→**PBL** (堀井氏より)

2). ステークホルダー(企業・専門教育・行政)へのアドボケート

ミクロ:言語の発達・習得 **3000**時間仮説

文化間移動・日本語使用における自己概念の変化

メゾ:学習とコミュニケーション(ジョイント・ベンチャー)を

促進する関係性と技能の必要性

言語能力≠思考力≠仕事力≠人格

マクロ:企業・組織の変化、リージョンの再考

3). 協働者とのリエゾン

8. シラバス例

ビジネス
コミュニケーション

仕事・職場の
日本語+α

ビジネス・マナー

ビジネス・スキル

ビジネス・リテラシー

多文化理解&
コミュニケーション

企業文化

アウェアネス・比較

文化的調整

文化を超える
コミュニケーション

生涯学習能力

学習管理
目標設定
計画・実行
評価

メタ認知
観察・仮説・試行・リ
ソース活用

ビジネス
コミュニケーション

仕事・職場の日本語 + a

- 説明力 & 理解力
- 依頼・連絡・指示確認・相談
- 端的・適切な表現
- 待遇表現 ●接遇

ビジネス・スキル

- メール、文書作成、
- プレゼンテーション
- 仕事の進め方

ビジネス・リテラシー

- 情報収集法・活用技術

多文化理解 &
コミュニケーション

企業文化

- 雇用管理・新入社員教育
- 企業の組織・運営

アウェアネス・比較

- 文化のメカニズム
- チーム・ワーキング

文化的調整

- 打ち合わせ・会議

文化を超えるコミュニケーション

- ダイアログと傾聴
- シナジー: 異文化間協働

9. ビジネス日本語と基礎日本語

例：基礎の言語事項をビジネス日本語として運用

配慮・展開の表現

①御社のご予算では難しいです。

⇒難しいかもしれません。

伝聞・間接話法の表現

②資料を準備してくださいということですね。

⇒準備するように

箇条書き一名詞句・連体修飾

③外国から輸入すること⇒外国からの輸入

④高齢者が起こす自動車事故が増えています。

⇒高齢者による自動車事故の増加(は)

10. ビジネス場面に特徴的な言語事項・表現

①コンテキスト(物理的・社会文化的、関係的)、
関係・状況・話題に適切な語彙・待遇表現

②配慮を示す/好感度を上げる婉曲表現

コンテキストと場の判断基準:BJ領域

基礎日本語領域・AS領域

③伝聞・間接話法

④連体修飾

⑤箇条書き(名詞句・体言止め)

⑥5/6W1/2H(やりもらい・受身・使役)

11. リーディング・スキル（AS）

一種のコンテンツと論理のアカデミック性を備えた素材
アカデミックなテキスト：

ある分野の専門家なりエキスパートなりが、そのトピックに関するある見識を持ち、それを言語で人に伝わる形で伝えている、語るに足るコンテンツの質と深みを備えたもの。

研究論文や専門書でなくても、言語学の大家が言語について一般人向けに書いていたり、篤農家が無農薬のりんごの作り方について語ったものでもよい。

思考様式（シンキングの形態：クリティカル、ロジカル、システム）

を使ってアクセスできるテキスト

学習活動：言語タスクと認知タスクを分けた読み

12. 終わりに

ビジネス日本語教育はキャリア開発の教育領域
教育のアウトカム:

「日本語グローバル人財」～「日本語人財」
アカデミック・スキルズがビジネス日本語の基礎
教師の役割:

- ①学習デザイン: 言語教育 + a
基礎日本語 → **AJ** → **ビジネスComm.** → …
- ②ステークホルダーへのアドボケート
- ③協働者とのリエゾン

ありがとうございました！



参考文献

奥田純子(2009)『「アジア人材資金構想」産学協同による環境共生型ものづくり高度人材育成プログラム ビジネス日本語』大阪大学大学院高度人材育成センターアジア人財教育プログラム

奥田純子(2010)「就職準備教育としてのビジネス日本語教育の課題—日本語学校の実践を通して—」『日本語教育学会2010年度秋季学会パネル「社会につながる、豊かな人材育成」のためのビジネス日本語教育の課題を整理し、デザインを試みる』発表資料

Schein, E.H.(1978). *Career Dynamics: Matching Individual and Organizational Needs*, Mass: Addison-Wesley.